

国労東北自動車支部

発 責
兜森秀昭
編 責
教 宣 部
NO,134
2018.4.1

**国労加入
で職場を
変えよう**

安プロ・各支部業務部長会議
4月21日(土) 13時
仙台地本会議室

**5月25日(金)
準備出来次第**

**バス
東北
バス
関東**

**ベア・ゼロ!
5年連続ベア実施**

3月30日(金)「2018年4月1日
以降の賃金改善の申し入れ」(国労仙
地申第12号)に対する回答が示され
ました。三回の交渉の中で会社は減
収、減益であることや仙台支店建設
工事等設備投資の増大を理由にベア
実施を見送り、55歳未満バス社員
の定期昇給実施のみとなり職場では、

落胆の声が聞こえています。
バス関東と雲泥の差?
同じグループ会社のバス関東は、
今回5年連続となる4000円のベ
アを実施し、6月25日精算の回答
を行いました。
この3年間をみると利益剰余金

いわゆる内部留保金は、バス関東で
2億2千8百万円。バス東北はその
倍近くの4億5千5百万円で6億
円まで積み上がっている状況です。
ベア実施できない理由など見当た
りません。
希望の持っている職場を!

平成30年3月30日
ジェイ・エス東北株式会社

平成30年度の新賃金については、当社を取り巻く厳しい経営環境を踏まえ、慎重に検討を重ねてきました。

東北地域では、景気は一部に弱さがみられるものの、緩やかな回復基調が続いていますが、依然として回復に向けた力強さを示しえない状況であり、当社においては、乗合収入が持ち直しつつあるものの、貸切収入減(代行以外)、駐車場収入減、軽油単価増、少子高齢化や地域の過疎化の進展等、当社を取り巻く厳しい経営環境は、より一層顕在化しています。

新年度においても、生活路線補助金の減額が決まっており、厳しい経営環境は変わりありませんが、現場社員の休日数の拡大、各種手当の改定を実施します。将来にわたり人件費の増加が見込まれ、経営を圧迫する懸念はありますが、人材育成や技術継承を担う社員の職責に見合った手当の改定を実施することにより、働きがいの向上や人材確保に繋がるものと考えます。

また、安全レベルの更なる向上に向け、最新技術を搭載した安全運転訓練車による教育、老朽化の進んでいる仙台支店整備工場や給油施設の建替え工事を実施し、作業環境及び休養施設の改善を図っていきます。

以上の状況を踏まえ、平成30年度の新賃金については、同業他社との競争力を保持し、諸事情を総合的に勘案したうえで、社員一人ひとりが自らを改革し、将来の大きな飛躍に向けて挑戦し続けていくことを期待し、下記のとおり回答します。

記

1. 平成30年4月1日現在、満55歳未満の社員に対して定期昇給を実施する。
2. 精算については、平成30年5月25日(金)以降、準備でき次第とする。

親会社のJR東日本は今年度3
900人の退職者がですが新規
採用は1800人で2000人の
要員減となり、業務の外注化等乗
り切ろうとしています。バス東北も
同様で、50歳以上の社員数は10
0名近くにのぼり今後、大量の退職
者を迎えることは明らかです。
高齢者対策としてエルダー勤務
をバス関東は4月よりJR東日本
同様、短日数勤務(週4日労働・8
割賃金)を実施しますが東北は要員
不足を理由にできないとのこと
です。
新規採用者が一桁台に留まっ
ている現状において、賃金をはじめ諸
手当の改善をスピード感を持って
行うことこそ求められています。